

ECAN ヨリヨリ ニュースレター

NPO 法人 環境カウンセリング協会長崎
Environmental Counseling Association of Nagasaki (ECAN)

<http://www.npo-ecan.org/>

リレーインタビュー
渡辺 学 先生

チングば ウォッチング!

✳ 学生主体のエコイベントを開催
イベントサークル

KURIBAN

✳ 長崎伝習所
「エコ名人を探せ！」塾

ECAN 活動報告

2010
九州環境教育ミーティング in 雲仙

イベントレポート
三井住友海上グリーン化プログラム
環境大臣と語る会

FREE!!
vol.

いい人、いい自然、いい長崎

環境カウンセリング協会長崎は美しい長崎の創造に貢献したいと願っています



イーキャン・リー・インタビュー



常に困っている人の目線を忘れないことが
JICAの基本理念だと思っています

渡辺 学 先生

——長崎へは、どのようないきさつで来られたのですか？

長崎大学の国際健康開発研究科大学院の立ち上げのためにJICA(※注1)から、2008年1月に赴任してきました。

実は国際保健の協力事業に必須の国際資格(MPH)がとれる大学が国内になかったため、熱帯医学や原爆後遺症関係の国際協力事業の実績がある長崎大学にその資格が取れる大学院が創設されたわけです。

この3月、修士課程を終えMPHを取得した第一期の卒業生を、国際協力の保健関係の専門家として各国(ケニア、ニカラグア、スリランカ、ザンビア、タジキスタンなど)に送りだしました。私も引き継ぎを終えたら東京のJICA本部に戻ります。

私自身は東京生まれの東京育ちですが、9年前に他界した父が長崎出身だったので、生きていたらこの2年半の長崎赴任は喜んでもらえたと思いますね。

——JICAに入るまでの経緯を教えてください。ただけですか？まず、どんなお子さんでしたか？

東京の小平市生まれの世田谷区育ちで、幼少時を過ごした小平市は田園風景が残っていました。小学生のころは休みとなると山登りやキャンプにでかけるなどして、自然には小さい頃から親しんでいましたね。

高校時代までサッカーに夢中だったので、大学進学の際には自然との関わりに興味があったので東京大学の理IIを選択しました。

——大学生活はいかがでしたか？

大学にはいつてからは「生物学研究会」に所属し、そこでバードウォッチングにはまり、それはいまだに続いています。その研究会の活動で一週間ほど山へも入りして合宿したりするうち、鳥そのものの観察だけでなく、棲息する植生や環境などに対する興味もでてきました。学科の選択にあたっては、人間を相手にした仕事をしたいと思うようになっていたこともあり、人を対象とし、その環境を含めて研究できることから「保健学科」を選び、最終的には大学院で「人類生態学」を専攻しました。

——「人類生態学」とは？

「人類生態学」とは、人が集団としてどんな環境にどう適応してその集団をどう維持しているかを生物学的にとらえる学問です。小さい頃から山に入って生物をみるのが好きだったたり、バードウォッチングでも鳥を生態域の環境ごととらえて観察することに興味があったりしたので、人を生態(生物学的環境だけでなく経済や制度など社会的環境を含めたもの)のごととらえるというコンセプトが自分の自然観に合うと思いましたね。

——大学院を経てJICAに就職するわけですね？

実は、院生時代は登校拒否状態でした(笑)。各自が個々のテーマをひたすら掘り下げて研究するというような、高度な専門性が評価される修士課程での研究方法は私の性には合わなかったようです。

とはいえ、自分が本当にやりたいことも当時わかっていなかったかもしれない。就職にあたって学生課に相談した際、できればフィールドに出たいと希望したらJICAをすすめられたわけです。

——JICAに入ってからどんなお仕事をされていたのですか？

最初には主に技術協力を実施する部署で、日本国内で優秀な専門家や技術者を探しだし、現地への派遣を依頼するのが主な業務でした。次に所属したのは、資金協力の計画作りをする部署でした。

JICAの役割は、現地の状況を理解し、暮らしやすくなるようなシステムを作り上げるために必要な教育や人材や環境を整えることです。が、直接手をだすことはしません。ただ東京の事務所においても、現地の現場においても、常に困っている人の目線を忘れないことが、JICAの基本理念だと思っています。人類生態学的に捉えた「人の生活」を理解した上で活動するのがJICAなので、JICAの仕事なら何をやるでも、自分の価値観に合うし、手ごたえを感じることがができます。だから部署はどこでもいいというわけで、私は人事の命じのままに異動に応じてきました。色々な部署で経験を積むうち、JICAの仕事は人類生態学を「研究」しているわけではないですが、「実践」はしていると感じてきた気がします。

院生時代には見えていなかった「自分がやりたいこと」はこういうことだったのではないかと今では思えますね。

——海外でのお仕事は？

インドネシアに二回、アメリカに一回行きました。インドネシアの一回目は、JICAの事務所員として保健分野の協力の仕事でした。あと、環境関係で、生物多様性、都市環境衛生も担当しました。

インドネシアの二回目は、インドネシア政府の国家開発企画省で日本のODAの援助調整をやりました。

ここでは、日本から出向している各省庁の書記官同士が協力して、日本の国内の行政を現地レベルのつながりから動かすODAタスクフォースという方式の基を作りました。

バン格拉デシュで学生とJICAの活動視察



※注1) JICA: Japan International Cooperation Agency の略。開発途上国に対する国際協力の人作り・制度作りを主な業務とする日本のODA(政府開発援助)業務を担当する独立行政法人。

※注2) 日米コモン・アジェンダ: 将来の世代が直面することになる重大な地球的規模の課題に対して日米政府と民間が参加して取り組んでいる、世界で最も成功している二国間協力の一つ。

(外務省 hp より引用)



キビタキ（野母半島）

撮影：渡辺 学

ただ、日本側がいかにも制度を作っても、現地の人たちが主体性を持ち、継続していく事が最も重要だという事は言うまでもありません。アメリカには、1993年、宮沢・クリントン首脳会談で発足した日米コモン・アジェンダ（※注2）のもと、アメリカの援助庁に人事交流の初代として二年間駐在しました。

——東京では劇団に所属していたそうですね？

コミュニケーション活性化のため芝居をとり入れた「コミュニケーションラボ21」という市民演劇団体に所属していました。40歳頃、声が大きいのを見込まれて、芝居をやっている知合いに誘われ入団し、41歳の時に初舞台にたちました。

公演の三カ月前から、仕事を五時半で切り上げ部下に仕事を押し付け、稽古に通っていました。しかもチケットを買ってもらい、公演にも来てもらうという、ほとんどパワハラ上司ですね（笑）。

——どんな役を？

合計四回出演したのですが、一回目は高校の演劇部の顧問の先生役です。二回目は酔っ払いセクハラ悪徳弁護士役（笑）。これははまり役といわれました（苦笑）。三回目は失業し女房子供に逃げられたボランティア親父役（笑）。この後、所属していた劇団が解散したので、別の市民劇団に移籍して2007年に四回目、一人暮らしのしがない退役軍人役を演じました。これが最後かもしれないし、またやるかもしれません。

——面白そうな渋い役どころばかりですね（笑）。演劇をやる前と後では何かご自分が変わったと思えることがありましたか？

人に伝え、訴え、わかってもらう事、つまりコミュニケーションは国際協力や大学教育の原点だと思え、その重要性和難しさを演劇を通じて実感できましたね。特に価値観や文化が異なる人達と分かりあひ理解しあわなければならぬ国際協力の場面で一番大切なのはコミュニケーションなので、JICAの職員には演劇を必須にしたいといえ思っていますね。

——バードウォッチングは今でも続いているのでしょうか？

実は大学を卒業してからの十年間は止めていたのですが、アメリカ赴任時、ワシントンDCから車で一時間ほどのデラウェア州の自然保護区で、ハクガンの一万羽の群れをみて感動し、再開しました。

アメリカの場合、土地の広さというのがまず第一にあります。人の居住空間と自然保護空間がきれいに区別されています。また、人の居住空間の中にも自然（憩い、ふれあい）が取り込まれています。狭い日本ではなかなか難しいとは思いますが、これからこういう人の暮らしと自然との上手な折り合い方、共生がすすんで欲しいと思います。そのためには自然との接し方（モラルやマナー）の教育も必要になってきます。

人は生きている以上、何らかの影響を環境に与えています。仕方ないことなのですが、その上で今後どうしていくかを考えるのが重要だと思います。

——2年半いた長崎はどうでしたか？

実は、長崎は渡り鳥の大きな二つのルートの交差点で日本でも有数の観察ポイントなのです。なので鳥を観るために県内かなり色々な所に行きましたね。

また、JICAの研修（地域保健システム強化など）をはじめ、大学の仕事でも、五島や平戸や島原を中心に学生を連れて何度も行っています。歴史に関する面白い話は各地で色々聞きましたね。ご当地ものの多さにも驚きました。

——20年後の日本はどうなっていると思いますか？

人は利便性、住みやすさなどを追及するものだし、企業もそのときどきのニーズに応じてのサービスを提供していくものですが、その結果、自分たちの首を絞めてしまう事態になることが今までは結構あったのが、みんなが少しずつ気が付き始め賢くなった、そうならないようになりつつある気がしますね。

私はたまたま、学生時代（30年前）に、諫早の干潟に行っているの、その凄さを多少なりとも分かっているつもりです。

干拓地を元に戻して干潟が復興することもあるいは技術が進んだら可能かもしれませんが、そのことで今の環境を壊すかもしれない。どちらがいいかと言うつもりはありませんが、このように不可逆性の物事にどう対応して価値観を作っていくかが今後重要になってくるとは思います。しかし、なかなか答えがないのが環境問題の難しいところだとも思っていますね。

——長崎を去られるタイミングでイーキャンの会員になっていただいたようですが？

イーキャン理事の早瀬先生がインドネシア時代の知合いだった関係もあり、去年の夏から事務所には出入りしていました。その頃から会員になりたいと言っていたのですが、せっかく会員になったので今後東京から応援はさせていただきますね。

長崎は鳥がよい土地で、とてもいい仲間もたくさんいるので、渡り鳥になった気分です。一旦は去りますが、また必ず戻ってきます。ひとまず一年に一度は鳥をみるつもりです。



鷹島モンゴル村でMPH学生と

渡辺 学（わたなべ ぎょう）
1960年東京都小平市生まれ
1987年東京大学保健学修士（人類生態学）修了後、国際協力事業団（JICA）に入団。
2008年より長崎大学大学院国際協力開発研究科に教授として出向（2010年5月）

インタビューを終えて

回転数が、エネルギー値が、並外れておられ、ずっと圧倒されっぱなしでした。残念ながら5月いっぱい、長崎を離れてしまわれますが、多分、鳥たちが先生をまた呼び戻してくれることと思います。

一度、野鳥の観察に御一緒させていただきたいと思いましたが、朝四時集合と聞いてあっさり断念しました。

聞き手／佐藤 恵

チングは ウォッチング!

環境問題に取り組むまちのちんぐたちの紹介

学生主体のエコイベント!

イベントサークル KURIBAN

— KURIBAN とはどんな団体ですか? —

KURIBAN (クリバン) とは、長崎県立大学シーボルト校の国際情報学部4年生9人で構成されている、イベントサークルです。「エコを勧めること・学生の力で長崎を活性化すること」をテーマに、アイデアを持ち寄って日々考えを巡らせています。またイベントの企画・運営は一貫して学生主体で行っています。

— KURIBAN になって変わった名前です。前の由来は何でしょう? —

名前の由来は、このサークルの創始者で私たちの先輩である、栗山依子氏が考えられました。「イベントを企画・運営するときは様々な物品を集めて展示する万博のように、色々なジャンルの楽しさを感じられるようにしたい」という思いから、栗山万博を略してKURIBAN (クリバン) が誕生しました。私たち現メンバーは先輩の意志を受け継ぎつつ、さらに「エコ」をミックスさせながらイベントを創り続けています。

— 活動内容は? —

今まででは、運動会、キャンプ、ファッションショー、を企画・運営しました。週に一回、授業の空き時間に集まり、お互いのアイデアをブレゼンしながら「楽しくエコを勧められる」イベントを、日々試行錯誤しながら作り出しています。

— ファッションショーをされたそうですね。

2008年に開催したエコファッションショー「TERRANIMA (テラニマ)」です。このイベントは、エコとファッションを融合させたショーで、私たちの生活から出る廃材(空き缶、瓶の蓋、ビニール、プラスチック片、ペットボトル、古着など)を衣装に再利用して行いました。

また、KURIBANメンバー以外にも県内の大学生にモデルやデザイナー、スタッフを募り、約50人の参加者で活動しました。大学生からエコを発信したいと考え、衣装の制作、モデルのウォーキング練習、会場探し、資金集めのための広告取り、ショーの演出(音楽や照明プラン)など、メンバーで仕事を分担し、自分たちの力で手作りしていきまし。

— どんな学生が参加されたのですか? —

メンバーの友達を数珠つなぎのように紹介してもらいながら集めました。ファッションが好きとか、ただ目立ちたい、スタイルに自信があると思っている学生も自発的に参加してくれましたよ。一番面白かったのがウォーキングの練習しているときで、普段大人しい友達が、練習を始めたとなん、急に妖艶なキャットウォークを披露してくれたことがあったんです。なかなか普段の学生生活からは垣間見えないことだったので、友達の間で内側を知っている機会となりました。

— 変わった名前のショーですね。TERRANIMAの意味ってなんですか?

私たちはこのショーのコンセプトに、普段ならゴミと化してしまう廃材で、地球の命の美しさや力強さを表現するために、コスチュームの中に「美」や「芸術」として再利用することを掲げました。そして、このコンセプトがイベント名の由来にもなったのです。ラテン語で「TERRAは地球、ANIMAは生命」という意味があり、〜つを掛け合わせてできた言葉が



撮影/映像制作団体 Siebo

TERRANIMA つまり「地球の命」という意味なのです。

—— TERRANIMA を通して得たものはありますか？

50人という大所帯のイベントは初めての経験だった私たちにとって、ショーの準備は楽しいことばかりではありませんでした。長崎中を走り回って会場を探したり、運営費を集めるために広告取りに行ったり、毎晩学校に泊まり込んでパンフレットを印刷したり…。数々の困難が積み重なって、メンバー同士で衝突したこともありました。それでも、本番が近づくにつれ、このショーがもはやメンバーだけでなく、モデルやスタッフとして協力している学生や、暖かいご支援ご協力を頂いた地域の方々の力で成り立っていることに気づかされました。その力に、感謝の気持ちと責任感を抱き、メンバーの結束力もより強くなったと思います。どんなに、素晴らしいイベントが企画できても、それを運営するには信頼できる仲間が不可欠。TERRANIMAのおかげでメンバーの信頼関係の基盤が構築されたように感じます。

——最後に今後の展望を聞かせて下さい。

現在メンバーは就職活動中ですが、その傍らで多数のイベントを計画中です。「エコ」を楽しく、お洒落に、そして思わずライフスタイルに取り入れたくなるようなレクチャーができるようにどの企画も試行錯誤しています。そしてその核には「エコ」で多くの方と触れ合い、楽しさを共有しながら、環境問題と向き合っていきたいというKURIBANの思いも忘れず、メンバー一同頑張っていきたいと思います。

聞き手／川上 暲葉



長崎県立大学シーボルト校イベントサークル KURIBAN
代表 森永真名美
✉ kuriban@sun-campus.com
http://www.geocities.jp/event_kuriban/



竹林へ行こう！

長崎伝習所

「エコ名人を探せ！」塾

古来、竹は有用植物として里山の近くで大切に育てられ、暮らしの中で利用されてきましたが、現在では手入れされていない「放置竹林」が大半となり、問題視されています。今回ご紹介する「エコ名人を探せ！」塾は、竹林の持ち主の方の御好意で、竹林に入り、竹の伐採・加工作業を行いました。（編集部・宮原・早瀬・佐藤・松本も参加しました）

切った竹は緑のカーテン用の竹組に利用したり、窯に詰めて竹炭と竹酢液を作ったりしました。（そしてできた炭でバーベキュー！）また、春には竹掘りもさせていただきました。新春の味を満喫させていただきました。

実際に竹林に入って作業してみても

・ 強靱な竹に刃物を使うのは枝を扱うだけでも慣れないと非常に大変な作業

・ 竹を加工する際には縦に割ったものの一本一本の節をナタで落とさなければならず非常に手間がかかる

・ 切りたての新しい竹を使わないと綺麗な竹炭はできない

など、想像以上に手間や技術が必要なる事がわかりました。作業を通して収穫だったのは、郊外などで見かける竹林の見方が全く変わったことです。竹林を見るとその健康状態が気になるようになりまし。爽やかな緑の中での作業は大変ですが意外に気持ちよかったです。今後も、より有効に竹が利用されるように活動を続けていくそうです。



格別のバーベキュー！



採れたての筍



やっとの思いでつくった竹炭
お部屋の消臭・防虫・除湿効果があります



切った竹と3畳程もある大きな炭焼き窯！

「エコ名人を探せ！」塾よりメッセージ

地元長崎で環境問題に取り組んでいいる「エコ名人」を探し出しできるだけ直接お話を伺い、紹介すること、また、市民の方々が一人でも多く気軽にエコ活動に取り組めるよう地元でねざした環境活動を提案することを目的とした塾です。関心がある方はお気軽にご参加ください。

情報誌



「エコ名人を探せ！」塾 連絡先
✉ hanaza@san.bbq.jp 佐藤まで

↓竹切りに悪戦苦闘...



2010 九州環境教育ミーティング in 雲仙



第3分科会
手延べそうめんの勉強風景



全体ミーティングの様子

九州環境教育ミーティングは九州地区を中心として活動している環境教育に興味・関心を持つ団体・個人の交流促進と、環境関連のグループ、学校、行政、企業などの環境教育の支援などを目的とし、平成9年から毎年九州各地で開催されてきました。本年は3月6日、7日に1泊2日で「2010九州環境教育ミーティングin雲仙」が休暇村雲仙で開催されました。大会のテーマは「雲仙（おやま）に学ぶ環境教育」として、雲仙・島原半島の自然・文化・暮らしの再生について共に学び考え、交流することを目的に、九州各地から110名の参加がありました。

プログラムに従って全体ミーティングに続き、8分科会に分かれて活動しました。

- ① センス・オブ・ワンダー
(火山とくらす生きものたち)
- ② シーボルトから未来へ引き継ぐ山野草
(薬草・食育・環境教育へのクロスオーバー)
- ③ 手延べそうめんに学ぶ
(地域に根付いた「食」)
- ④ ジオパーク！
(「ジオパーク」を楽しむ方法)
- ⑤ パートナリシップによる環境地域づくり
(市民・大学・行政の連携)
- ⑥ 和蠟燭（ろうそく）作りに学ぶ
(ハゼの木を見直し新しい産業を考える)
- ⑦ 島原に子ども自然学校を創ろう！
(子ども農山漁村交流プロジェクト)
- ⑧ 棚田から見えるもの
(持続可能性と豊かさを考える)

そして、全体会にて分科会活動の成果発表が行われ、活発な議論がなされました。また、6日の夕方からは交流会が和やかに行われ、親睦を深めました。今回のミーティング開催のために、イキャン会員の浅田、矢野、宮等が中心となり大会事務局として1年間準備をしてきた結果、成功裏に終えることができました。来年3月は熊本県で開催予定ですのでご期待下さい。

ECAN 会員紹介 No. 7

長崎県県央振興局河港課

橋口 茂さん
(イキャン個人会員)



環境カウンセラー（市民部門）
技術士（総合技術監理部門、建設部門）

川に学ぼうかい — 満5年を迎えます —

私は、現在「川に学ぼうかいin浦上川」の事務局をつとめています。5年前に念願の環境カウンセラーに登録し、イキャンにも入会した直後の2005年8月から、様々なご縁があって、この環境活動を始めることができました。初回は3名でしたが、今では2ヶ月に1回の定例活動に概ね20名前後のメンバーが参加しています。6月の活動で第30回となり、おかげ様で満5年を迎えます。昨年度は、イキャン川口理事のご推薦により、ごみゼロながさき優良団体を受賞しました。会を代表して表彰式に出席した学生委員をはじめ、会員の励みになり、感謝いたします。

息の長い活動を続けていきたい

会の活動は、主に長ぐつをはいて浦上川の流れにふれながらゴミを集めるといった簡単なものです。ゴミを拾うことには限界があり、また、自由な視点で川に学ぶことをめざしているため、ゴミや生きものの様子を観察したり、ボーッとすることもOKとメンバーにも伝えてあります。

こうした体験を通して、生きものたちや森から海までのつながりなど環境や防災のこと、浦上川に関わる貴重な歴史や平和のことなどに思いをはせつつ、息の長い活動を続けていきたいと考えています。とてもささやかな取り組みですが、活動を通じて、少しずつ私たちのライフスタイルを見つめなおしていけたらいいな・・・と願っています。

私たちの暮らしを含めた人間活動により、地球規模の環境問題が深刻化している今日、私は様々な場面で足元から行動する必要性を実感しています。

今後、関心のある方がどなたでも参加いただけるよう、微力ながら、環境カウンセラーとしてメンバーとともに粘り強く取り組む所存です。これからもイキャンの皆さまには、ご支援をお願いいたします。可能な方は、ぜひ活動にもご参加ください。

2010年4月（第29回）の活動の様子



活動報告やメンバーの声などを掲載しています
<http://blogs.yahoo.co.jp/kawamana2005>

イベントレポート

環境カウンセリング協会長崎／エコアクション 21 地域事務局ながさきの活動報告

1 三井住友海上グリーン化プログラム

三井住友海上の関係企業で、自動車整備工場を対象としたサプライチェーンの会員が本プログラムに参加し、エコアクション 21 審査人を講師として、エコアクション 21 認証・登録を目指す集合研修を行いました。これは環境経営を推進するためにエコアクション 21 認証・登録制度を活用し、関係事業者の二酸化炭素排出削減対策等の取組みを支援する有効な手段です。1 月に佐世保市で説明会を行った後、構築講座を 2 月から三井住友県央支社にて 4 回実施しています。今後、8 月に第 5 回目の講座を開催予定です。

また、エコアクション 21 地域事務局ながさきでは、ボランティアを募集しています。興味のある方はお気軽にご連絡ください。

お問い合わせ先：
エコアクション 21 地域事務局ながさき
空閑（くが） TEL：095-893-5900



口座の様子

2 環境大臣と語る会

2 月 13 日（土）、小沢鋭仁環境大臣が「国の環境政策への意見や要望などを直に聞きたい」との理由で長崎を訪問され、県内で日頃から環境問題などに取り組んでいる NP0・市民団体 20 団体（50 人）が一堂に会して懇談会を開催しました。続いて、大臣は現場視察を兼ねて長崎市立伊良林小学校を訪問されました。

各団体との懇談会では、当協会の宮原和明理事長が司会を務め、まず大臣がグリーンニューディール政策について、「環境と経済」の共存等に関する考えを述べられました。次に行われた意見交換では、本県に最も関わりの深い漂流漂着ゴミ問題を大きな柱として、また高速道路無料化の問題や参加団体の要望等もあり、活発で多様な意見交換が行われました。特に当協会が来年度（23 年度）に企画している漂流漂着ゴミ問題に関する「日中韓環境ヤングサミット」開催については大臣からも強い関心をいただくことができました。

また伊良林小学校での現場視察では、「ながさきホテルの会」の代表が地域や子どもたちと一緒に続けてきた蛸の生態系を取り戻す活動について話をしました。ここでも、子どもたちから高速道路無料化反対などと意見が飛び交い、大臣が困惑する場面もありましたが、全体を通して大変有意義な時間となりました。



小沢鋭仁環境大臣と宮原和明理事長



会場の様子

Information

6 月環境月間「街頭キャンペーン」

日時：平成 22 年 6 月 12 日（土）11：00～15：30

場所：ベルナード観光通り（長崎市浜町）

主催：長崎県、長崎市

「地球温暖化対策市民ネットワーク」キックオフ宣言

日時：平成 22 年 6 月 12 日（土）11：00～11：30

場所：ベルナード観光通り（長崎市浜町）

環境カウンセリング協会長崎定例総会

日時：平成 22 年 6 月 19 日（土）15：00～17：30

場所：三菱重工業記念会館（長崎市稲佐町 1-15）

エコアクション 21 自治体イニシアティブプログラム（長崎市）説明会

日時：平成 22 年 6 月 25 日（金）13：30～16：00

場所：長崎市立図書館 メモリアルホール（長崎市興善町 1-1）

対象：長崎市内の一般企業・団体

お問い合わせ：エコアクション地域事務局ながさき TEL 095-893-5900

エコアクション 21 自治体イニシアティブプログラム（長崎市）構築講座

日時：平成 22 年 8 月 6 日及び 20 日（金）13：30～16：30

場所：県民ボランティア活動支援センター（長崎市出島町 2-11）

対象：長崎市内の一般企業・団体

お問い合わせ：エコアクション地域事務局ながさき TEL 095-893-5900

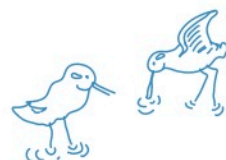
エコアクション 21 自治体イニシアティブプログラム（佐世保市）説明会

日時：平成 22 年 6～7 月 3 回開催予定

場所：地区公民館等（佐世保市）

対象：佐世保市内の一般企業・団体

お問い合わせ：エコアクション地域事務局ながさき TEL 095-893-5900





渡辺 学先生

長崎大学大学院国際協力開発研究科

バーダーです。仕事そっちのけで鳥を見ている。長崎は、とても多様性に富んだ自然を有し、鳥の越冬と渡りに関しては、日本一だと思います。週末にはあちこちに出発しています。お見かけになられましたらよろしく！



井上 幸雄さん

ISO 審査員 (QMS、EMS)

微力ですが、「環境」のために何かのお役に立ちたいと思って入会しました。



山口 宏さん

エコアクション 21 審査人

はじめまして。環境審査員とエコアクション 21 審査人をして個人会員の山口と申します。よろしくお願いします。



富工 妙子さん

ながさきホテルの会

この度、個人会員として入会させていただきました。自然が大好きです。よろしくお願いいたします。



深見 聡先生

長崎大学環境科学部准教授・学術博士

はじめまして。エコツーリズムなど観光と環境のかかわりに関心を持っています。宜しくお願いします！

イーキャンニュースレターが vol.5 から リニューアルしました

タイトルは「ヨリヨリ」です。
寄り寄り にぎやかに仲間があつまって
依り依り 助け合い活動が続けたい
そんな想いを込めました

会員募集中！環境についてともに考え活動しませんか？

環境カウンセリング協会長崎は、中立な立場から市民、事業者、学術機関及び行政のパートナーシップの形成を図り、それぞれの環境への取組みを支援することを目的に設立されました。

循環型社会を根付かせ、人と自然が共に生きる心豊かな長崎を作るために、企業、団体、学術機関、行政そして市民としてそれぞれの立場からのご支援とご協力をお願い致します。

会員の種類	入会金	年会費
個人会員	1,000 円	3,000 円
学生会員	-	1,000 円
企業会員	-	10,000 円
団体会員	-	30,000 円
賛助会員	-	一口 (50,000 円) 以上

現在の会員数（平成 22 年 5 月現在）

個人会員 65 名，企業会員 29 社，法人会員 4 団体，学生会員 10 名

お申し込み・問い合わせ先

環境カウンセリング協会長崎

TEL (095) 818-3305

E-Mail ecan@npo-ecan.org

理事

宮原和明（長崎総合科学大学教授）、時田雄次（学術博士）、菅 洋一（（株）エコシステム）、武政剛弘（長崎大学教授）、早瀬隆司（長崎大学教授）、安永憲一（長崎県中小企業団体中央会）、川口孝範（（有）T・N・C・エスコ）石橋康弘（長崎総合科学大学教授）、山田知代（ばってんキャンドルナイト実行委員会）、空閑次男（エコアクション 21 地域事務局ながさき）、新宮一広（（株）環境衛生科学研究所）、重橋裕明（長崎三共有機（株））



編集後記

会員紹介の記事を書いてくださった橋口会員の「川に学ぼうかい」ですが、数年前に 1 度だけ、私も参加したことがあります。川に捨てられたゴミを集めながら、色々な生き物を見つかったり、川の流れる様子や周囲の音に時間を忘れてぼーっとしてみたりと、自由な活動スタイルに魅力を感じました。今でも定期的に連絡をくださった、HP（ブログ）も充実し、マメに更新されているのを見ると、それも安定して人が集まり、活動を続けている秘訣の一つではないかと思えます。私も見習わないといけませんね。まずはこのヨリヨリを年 4 回・・・（汗）！ゴミに対する人の意識が変わり、川がきれいになることを願って・・・また私も活動に参加させてください（^^）／塩竈 綾（ECAN）

記事募集！

次号のニュースレターにあなたの書いた記事を掲載しませんか？
環境問題や温暖化問題に関する記事を募集します。

また、ニュースレターへのご意見やアイデアもお寄せ下さい。

編集部 宮原和明 早瀬隆司 塩竈綾（ECAN） 監修／山崎加代子 取材／佐藤恵 制作・デザイン／Makentosh 川上遥菜

ECAN Newsletter ヨリヨリ vol.6(2010 年 6 月)
■発行：NPO 法人 環境カウンセリング協会長崎
Environmental Counseling Association of Nagasaki(ECAN)
〒850-0036 長崎市五島町 3-3-206
TEL(095)818-3305 FAX(095)826-3693
業務時間：平日 10:00～17:00 定休日：土日祝日
http://www.npo-ecan.org/

■印刷 総合印刷 コマツ印刷

Copyright 2010 Environmental Counseling Association of Nagasaki All rights reserved
本誌の無断複写・複製・転載を禁じます

ECAN LOGO MARK
長崎県の形+葉っぱをイメージした緑
右手は「力」を意味する赤。（ガッツポーズ）
左手は美しい水を意味する水色
回りの円は、碧い地球



このニュースレターは再生紙を使用しています